

巻頭言

のらえもんは進化する

古高 利男

コロナの影響を心配することなく活動できた2023年度であった。あらためて普通に活動できることの有り難さを喜びあいたい。

しかし、世界を見渡せば戦争という「非日常」が「日常化」しているところがある。人が人として名もなく生きようとしているところに、国家という化け物が襲いかかり、ある日突然「日常」が奪われる悲しさと悔しさ。

人という生き物は、少しも歴史から学ぼうとしないのだろうか。それは「進歩」「発展」ではなく、「退歩」「滅亡」を意味するのではないだろうか。

のらえもんは17回の活動と3回の販売協力、そして本冊子と2つの小冊子を発行することができた。

のらえもん活動の中で、思い出に残るものをふり返ってみたい。

一つは、「押し花遊び」である。

講師の高松紀代子さんが、押し花絵はがきだけでなくアロマキャンドルと押し花入りレジックラフトを加えてくれた。講師が替われば、内容が変わる。新しい発想は参加者にも好評で、押し花の活動を一步前進させてくれた。

初めての企画は「子どものための夏休み企画・・・自然に触れよう、楽しもう・・・」である。

「自然を満喫しながらゆっくり温泉で一泊しよう」というねらいは大好評で、温泉とバイキングは親子ともどもゆっくりのんびりできた。

一家族だけの参加だった「サケの紙芝居とドングリ遊び」。

とうとうサケの受精卵が、手に入らなくなってしまった。海水温の上昇で、サケが川に戻ってこないという。急遽、温暖化に触れつつ紙芝居をした。これから、地球の温暖化に触れていくようになりそうだ。

活動の他に、2つの小冊子はまとめることができた。のらえもんの地道な活動の成果である。

のらえもんでは、これまで稲の苗（これは宅間さんの田植えのときに、余った苗をいただいていた）・カイコの卵・サケの受精卵を、教材として保育園・こども園に配布してきた。

この度、こども園の園児および先生方のご協力を得て、それらの飼育栽培活動をまとめることができた。

・稲とのふれあい	2021年度	鹿浜こども園
・サケを育てました	2022年度	元宿こども園
・カイコを育てました	2023年度	元宿こども園

「稲とのふれあい」では、苗の確保から観察・収穫、そして食べるまでの総合的な取り組みを報告している。

土づくりやネットをかけてスズメとのかけひきなど、園児たちと工夫しながら進める風景はほほえましい。なによりも、生産から消費という長い時間的経過の中で、主食として食べている「お米」の全体像を演じたちにイメージ化させようとする先生方の熱意が伝わってくる。

「サケを育てました」では、卵から頭を出して孵化する瞬間を観察して驚く園児たち。それは「生命の不思議」「命の誕生」をどの子にもわかりやすく伝えているのではないかと。観察だけでは終わらずに、日本料理長を招聘してきて「サケの解体」を見せ、それを給食で食べてもらっている。

この「学びの連鎖」は、園児たちの興味関心をいっそう高めていこう。

「カイコを育てました」では、虫嫌いな園児たちを魅了してしまっていて、凶鑑を持ち歩く子や幼虫を強く握ってしまい内臓を飛び出させてしまった様子が生き生きと報告されている。

興味を持てば追求しようとする園児たちの姿をとらえ、先生方が「学びの連鎖」を追求している3つのすばらしい実践報告である。

共に関わったことは、のらえもんの大きな財産になった。

また、足立区のげんき応援事業の助成をいただき、「子どもたちの夢と希望を育む・・・身近な自然を通して・・・」をまとめることができた。

どの活動も身の回りにある材料を使い、ひと工夫することで「新しいもの」ができることを追求した。

消費の時代と言われて久しい。今を生きる人たちは「欲しいものはお店で買うもの」という感性である。そこに一石を投じたい思いがあった。

道端に咲いている草花。それを押し花にしてハガキの上にのせ、さらにヒートシートを被せてアイロンをかけると、売っているものにひけをとらない個性豊かな自分だけの絵はがきができる。

「買わなくても、自分でつくれるんだ」「なんだ、こうやって作ればいいんだ」という気づきから身近な自然を見る目を養い、どの子にも味のある人生を送って欲しいと願っている。

これら2つの小冊子をまとめることができたのは、園児と先生方・区そして活動に参加してくれたすべての人たちのおかげである。深く感謝申し上げたい。

「進化」とは、「当たり前前の日常が続くこと」ととらえれば、のらえもんは今年で23年目である。のらえもんこそ「進化」していると、胸を張っていい。「たいして変わりばえしないな」という活動でも続けていく意義はあり、内容を高めていく活動こそがのらえもん一人一人に課せられている。

2024年度も、明るく元気に楽しく前へ進めていきます！

2023年度 活動報告一覧

回	実施日	活動内容	場所	参加者
1	4月 8日(土) 13:00～ 15:00	桜見物と カブトムシの幼虫配布	都市農業公 園	大 15 小 3 幼 3 計 21
2	5月 7日(日) 全日	田植え体験とイチゴ狩り カイコの卵配布 アサヒビール工場見学	宅間農園 バス利用	大 26 小 14 幼 5 計 45
3	6月10日(土) 14:00～ 16:00	押し花遊び 7回目 ・ 押し花はがき ・ アロマキャンドル ・ レジンクラフト	鹿浜五色桜 小図工室 講師：高松 紀代子	大 9 小 2 幼 3 計 14
4	7月15日(土) ～17日(月) 2泊3日	第14回夏休みキャンプ体験 「アウトドアライフを日常の生 活に取り入れよう」	日光市土呂 部 キャンピイ ンドロブッ クル	大 16 中 1 小 11 幼 2 計 30
*	7月上旬～下旬	桃の販売協力 12年前にお世話になった宮原 さんの桃を直販しました	塩山 宮原農園	
5	7月29日(土) ～30日(日) 1泊2日	子どものための夏休み企画 「・・・自然にふれよう、楽しも う・・・」	宿泊 川治一柳閣 塩原 龍王峡 鬼怒川	大 13 中 1 小 3 幼 1 計 18
6	9月 2日(土) 16:00～ 18:00	ハゼを釣ろう 15回目 講師：福藤 恭司 釣果 マハゼ 9 セイゴ 3 キビレ 1	都市農業公 園下の荒川	大 12 小 7 幼 3 計 22
7	9月 9日(土) 全日	稲刈り体験 14回目 田んぼ遊び、虫取り 中山酒蔵見学	宅間農園 中山酒蔵 バス	大 26 中 1 小 7 幼 7 計 41

9	11月11日(土) 11:30~ 12:30	のらえもん米の販売 宅間さんへのお礼 販売総量499, 2kg	いきいき館 駐車場	
10	11月11日(土) 14:00~ 16:00	草木染め ハンカチに模様を着け、タマネギの皮で染めました。 折りたたみしぼり、巻締め	山口宅の庭	大 7 小 2 幼 1 計 10
11	11月19日(日) 全日	和紙漉き体験とみかん狩り 2回目。 久し振りに快晴!	東秩父村和紙の里 見晴園	大 22 中 1 小 8 幼 8 計 40
12	12月 2日(土) 13:00~ 15:30	サケの紙芝居と野鳥観察、そして ドングリ遊び 鮭の受精卵は確保できませんでした!	都市農業公園	大 3 小 1 幼 1 計 5
13	12月24日(日) 12:30~ 14:30 15:00~ 17:00	・しめ縄づくり 稲刈りのわらを使って ・もちつき	いきいき館 山口宅の庭	大 19 中 1 小 10 幼 4 計 34 大 15 小 7 幼 3 計 25
14	1月13日(土) ~14日(日) 1泊2日	第16回雪山体験教室 雪の里山体験 ・・・寒さを楽しもう・・・ ・冬の星座観察、寒さ実感、 ・カフェのらえもん	菅平ダボススキー場 菅平プリンスホテル	大 14 小 5 幼 6 計 25
15	2月 3日(土) 全日	リベンジ化石探しの旅 初めて、化石を求めて野外活動を実施しました。 電車の旅も、なかなかでした!	佐野市葛生化石館およびその周辺	大 7 高 1 中 1 幼 1 計 10

16	2月17日(土) ～18日(日) 1泊2日	土呂部の冬のごちそう 「メイプルシロップの樹液採り」 1日目：樹液採り 講師：飯村孝文 冬のキャンプ場見学 2日目：ソリ遊び	日光市土呂 部 宿泊 水芭蕉苑	大 6 高 1 小 2 計 9
17	3月 2日(土) 14:00～ 16:00	梅見物と早春の生き物観察 大縄跳び 空気砲 梅見物 野草観察 野菜観察 ヨーヨー遊び	都市農業公 園	大 7 小 1 幼 2 計 10
	3月上旬～ 4月上旬	イチゴの直販の 協力をしました	宅間農園	

参加者合計 大人 217
 高校生 2
 中学生 6
 小学生 83
 幼児 50
 合計 358

* 生物教材の配布

次のような生物教材を、
 希望する保育園・幼稚園および会員に配布しました。

○ カブト虫の幼虫

○ カイコの卵

○ サケの受精卵は、海水温暖化のため、入手できませんでした